磐城新聞
（二十一日夕刊）

休刊（祭日翌日）
定價（一部二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（一行五十錢指定十錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

雄野勇詩集

「顏と樹」の讀書後感

鈴木工兵

「顏と樹」を讀んで非常に好い詩集だと思つた。殊に山の暴風雨には感心して了つた。讀みながら、輕井澤の奥での暴風雨と、第二回目の富士に見た自然の慘虐とを思ひ浮べてしまつた自然と人との比が如何に非數字的であらうか、反對に「自然」に跳戰する「人智の侵略の如何に能卒的であるか、私は山を見る度に考へさせられる。

「山の暴風雨」から失禮な言葉を並べて、強いて反對の心持を書いて見たいと思ふ。勿論私の云ふことなんか他山の石にもならんとは思ふが、十五億の人間のうちのたつた一人だけが、この書を褒めるかはりに貶したと云つちや失禮だが反對な氣持が所々あつたと云ふことは事實だ、山の特異暴風雨が突發した記述は平凡に長々と叙されてゐるが自然のそれ丈けの暴虐の結果についての叙述が足りないだらう。俺達と云つてゐるけれども、こゝには複數のことは書いてゐない。否表現されてゐない。あらはれてゐるのは暗黑界から光明界へ取り殘された、たつた一人だけの感情記述に過ぎない。暴風雨後のかの輝かしい太陽の色、樹の緑、全く俺達、尠くとも俺一人にはもつと／＼力強い感じが胸に迫つてくる筈だ。そう力強い自然對人間の感じが薄い。だが「俺達は大きな大きな呼吸をした」の結びで、兎に角、精神の影がうかゞはれる。大きな呼吸をする處に云ひ知れぬ觀喜と安堵と生命の獲得とが言外の深重な意味を表はしてゐる。

「山の呼職」は平凡に童話的に、而も山へ行つた人の誰でもする好奇心と寂寥感と同胞愛の認識をよく表け

「針の木峠」私はこの峠を知らない。

「山の挨拶」實に好い。体驗しなくちや出ぬ。私も毎朝毎日曜山へ行つてこの温かな和やかな氣分に浸つてゐる。

「君よ」でどこやら但人意識から同胞愛、自然への温情がやうやく現はれてゐる「五色ヶ原」中學生が美文集から拔いて書いた文章のやうに力のないセンチメンタルな氣分が流れてゐる

通觀して「山の詩」は好かつた。全てが体驗から出しゐる爲めに粗削りながら今建築だ、住む人の雜作が要るわけだ

×

「直行車」夜のロッキー谿谷を縮ふて行く直行車、又ウラルから廣漠幾千里の西比利亞の通を行く夜のカチユーシヤを運ぶ直行車、猛獸ひそむタンガンイカからコンゴーへ行く深夜の自動車只夢中のバク進があるばかりである、彼等のタクマしきもの丶忠實な心持ちがよく出てゐる。

「無數の時計が時を」前と同じだか、俺達は時を輕蔑することも、疑ふことも出來ないんだ。

「彼ら」もそうだ、假管で好い「第七天國」のチコーも「水掃除人たりしとき如何かして道路掃除人でありたいと思つて努力したものだ坑道から出て外界を眺めた時には太陽と共に生活し得るゝものへの羨望と云ふものは大へんに大きいもんだが慣れてくるともう一歩先へと考へる。常に尖項をめざすが大低の人間は自分の求める尖項をのぞみながら到達出來ないものだ。この邊には大へん致へられることがあつた　感情と利害の問題ーすし、平和理に解決する、又しやうとするのは結構だけれども、俺にはまだ／＼刀を磨かねばならぬ場合と機會とがあるだらうと思ふ。

要するに此の一篇は學習に對する眞面目すぎた記述であつてそこに人間の力かはいつてゐない。

×

「顏と樹」ある過渡期に非常な力で流行し作詩されそして今では極く一部の人々にのみ解決されて行く先覺的詩風に盛られた、飛び踊り、笑ひ、泣く詩だ、時に絞つたり大寫しにしたり秋の赤トンボのやうに同じ梢の廻りをのみ、つかずはなれず動いてゐる。

「構圖に對しては何とも云へない。私の構圖と作者の構圖とは又そこに主觀の差異があるから。

×

扨て總括的讀後感だが私には良く讀めた共鳴する點も一二にして止まらぬ程であつた。然し、ヒイキ眼にみても粗削りであつて内在的魅力の發輝が足りないやうに思へる。折角の佳作を私如きが云々すべきは甚だ失禮の次第だが私には思ふことを制してたゝ褒めることの出來ないヒネクした心があるので私自身惱まされる折もある位だから失言は勘辯願ひ度い、實際この一版を展げて大衆に呼びかける時、幾人の若人が共鳴するかゞ問題だ、映畫觀賞會などの時私はいつも興業價値のなさゝうな理想論を並べるので、私の立場はいつも孤立だ、そんなわけで今の大衆は未だ／＼こうした作詩風ヶ共鳴し理解し得まいと思ふ。然し本書の詩そのものとしては相當洗煉されたものだと私には思へるが、一面前述の粗削りの跡がより以上に殘されてゐるのを見る。それ丈け若い時代を物語る實證になるかも知れない。時代の先端を行く作者の常の努力にはいつゝ乍ら感服されてゐる。こうした人格の反影がこの詩となつて先覺的警鐘を奏えんとする俺達の心持に高く響かしてくれることは喜ばしい次第である（了）

小説

死を超ゆる者

(116)

三上於菟吉作　布施平八郎畫

有爲轉變（四）

「さうです」と村越は言つた

「岡田男爵なぞは何しろ背景が大きいから動きませんそれが口やしいのでいつも間さんなどは徒黨を拵へて突つかゝるのですが急くのでやり損じが出來るのです、急げば損じるとは……

「私はお父様が貧乏だつたら好いと思ふわ」

と、突然妙子は言つた。

「さうさ、少くとも金持ちよりは」と村越は答へた

間がさうなるとすると今後のとき子の身の振り方を如何にすべきか

改めて考へなければならないといふ事は彼れ等の胸にあつた

始めから彼等は時機を見て穩かな方法で間から離婚させるのが一番だと考へて居た。そして折を待つてとき子を慰めて居た、けれども此の場合問題は別になつて了つた急に逃げ出したけれど、明日にもそれは出來

而し相手ががうした窮境に陥つて見ると今すぐ手のひらをかへすやうに言ふのもそれは餘りに社會に對し人の前をも顧みず不人情極まる仕ぐさのやうにも感じられる……とは言へ彼等はさうした事は誰も口に出さなかつた。そして兎に角にも、富豪壓迫のかるくなつた事を心中秘かにとき子のために喜んでやるだけにした

「古い言葉だが因果應報さは好く言つたものさ」

と村越は卒直に言つた。

「總て或る報ひがあるのだそれは自然の意志だ、焦せらずに待つ事だ、望みを抱いて待つて居れば屹度長くはない、運命は答へて呉れるだらう」

三人の女はめい／＼にこの村越の言葉を心に味はふのであつた、死のみが救ひであると信じたとき子でさへ、今は或る果敢なく靜かな希望が胸に湧くのを感じた、

「めい／＼に辛い人世だけど、さう思へば辛棒のならない事はないわね」

と、和子も言つた

そして彼女自身、あの放埒の良人と險しい姑を持つた自分の境遇を思つて見ない譯にはゆかなかつた、けれどもさうした彼女には慰めがない、譯ではなつた一度身を暗黑に投じた善き弟ら兎に角薄明りへ浮び出したには遊びなかつた、孤獨だと信じた自分の周圍には頼もしい男女の友達が出來た、彼女は付け加へた

「何日かみんなが幸福になる日が來ませう」

けれどもゆつくり話しては居られなかつた、一行は今夜歸京すると言ふとき子と同じ汽車で歸ることになつた、打合せが濟んでとき子が去ると、彼等もまたあはたゞしく行李の始末を始めるのであつた

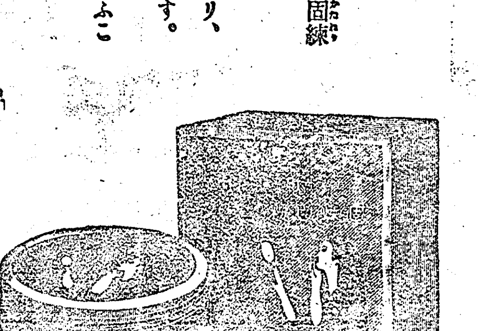
◆

すが／＼しく乾いた秋風が藍色に晴れ渡つた初秋の空から吹き下ろして、すき通るやうな輝かしい午前の光が心好く射し渡る或る朝今し着いた急行列車を降りし溢れるやうな多くの人浪押されながら東京驛を立ち出でた一人の若者があつた。勢よく大急ぎに走り出すやうにサッサと振向きもせずに歩を進めて立ち去らうとした。

化粧くづれのない
固煉白粉

一　汗で化粧くづれにお困りの方は、是非ホシ美固練白粉をおつけ遊ばせ。
二　ホシ美固練白粉は、化粧くづれのない上にノリ、ノビがよく、化粧榮のする特徴を有つて居ります。
三　このホシ美固練白粉こそ、皆様の御満足を購ふことの出來る品でございます。

ホシ美固煉白粉



東京　星製薬株式會社　大崎

下山竹の子孃再演
愈々御當地お別れ興行
來ル十月二十二日ヨリ東都ヨリ幹部數名ヲ差加ヘ開演仕候付御ひゐき御引立程偏倍し御願上候
平町　聚樂館
後援　各新聞販賣店
竹の子會一同

牛ブタ肉大賣出し
平町　三三屋肉店　四倉支店
肉の氣節に入りました召上る節は本町一三七番地の三三屋に御出で下さい
三三屋四倉支店
電話呼出（五五・七一）

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
醤油釀造元
鹽屋　山崎合名會社
電話一〇番

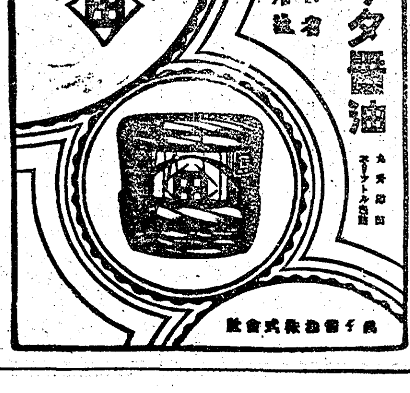
貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は　三四三番　サシミ

美味にして強壮の効著大
血をふやし肉を肥やす

スッポン飴　一圓　二圓
スッポン酒　二圓
スッポンヘモクロビン錠　三圓
平町五丁目角
山野邊藥局

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平長五〇七番

諸根勿來先生著
綱要　石城郡町村史
著者は昨年末、類燒に罹って貴重なる原稿及び圖書の凡てを灰滅し、其の災殃の第一紀念出版として、或は文獻報郷の希ひとして、最大の犧牲を拂ひて、茲に本書を刊行するに至れり。乃ち本書の原稿は當時、著者が郷里川部村勿來庵に保存せるを以て、僥倖にも火災より免れ得たのを大ひに喜ぶ
本郡各町村郷土誌編、纂上唯一の參考書である
菊大版、九ポイント活字充質組、クロース、天金、函入、口繪八頁、總頁二百八十餘
定價五圓、送料十二錢
發行所　福島縣平町田町一番地　郷土社出版部
電話八〇七番　振替東京六九三〇六番


ヒゲタ醤油
銚子醤油株式會社

特約店
平町田町
廣瀬支店
電話五四番

民政黨内閣の手で實現は絶望
商港問題で悲憤した小名濱町民觀念

小名濱商港は着工と同時に濱口内閣の緊縮方針に依り事業中止を命せられたのを地方民が決死的運動を續けた結果人件費をもつて漸く名目だけにもせよ事業を繼續する事になつたので、明年度からは既定割に依り六十餘萬圓の豫算を計上されたものと豫測し最に町長、町會議員、その他有志が上京して既定計劃の遂行運動をなしたが、今回新に編成される内務省の豫算港灣改良費に小名濱商港工事費は八割繰延ることに決定してゐる旨が傳へられたので地方民は今更の如く驚き十萬圓内外の豫算を明年度に計上されたのでは商港の實現はいつの事になるかわからないので、同町では再び決死的の運動をなす事となり近く有志が上京關係各省にそれ〴〵陳情をなす由であるが、明年度からはと心待ちしてゐた地方民は事業費の八割繰延を傳へ聞き全く呆然としてゐるが民政黨内閣には全然望む事か不可能であるからと觀念し運動等はせないらしい

川前村の小火　石城郡川前村字下澤根本孫次居宅裏小屋より十八日午後九時三十分頃發火同小屋一棟を全燒十時鎮火した原因並に損害目下調査中

平町の戸數割が滯納二千五百戸
既に差押ひの町當局
今月末に競賣

平町では三年度後期戸數割その他の町税滯納整理中であつたが何としても納入しないものゝ財産を差押へ愈々來る二十九日午前十一時町役場會議室に於て一般の競爭入札に附することになつた、この滯納金額は戸數割二千五百三圓四十三錢（二百五十二名）雜種税一千八百八十五圓九錢、家屋税三百二十二圓四十四錢を初めとし總額金五千六百九十四圓七十四錢延人員約八百名の多きに達しこれが差押へ物件は大は實に一千餘圓の土地を初め家屋、タンス、火鉢、時計から小は十錢二十錢の小物まで總計一千點を突破し競賣當日の盛況が思ひやられると同時に不景氣時代に當つて幾多の納税悲話哀話がつくられ悲喜劇が演せられるものと豫想されるが古物商連は買ひ入れ時とばかり眼を白黒させながら本性を出して居る尚三年後期における小學校の授業料その他税外の町費を滯納したもの九十七名（延人員）金額四百九十圓二十錢も差押へられ同時に競賣に附される

リヤカーで贓品を運搬
二人犯人逮捕

石城郡湯本町字三函地内を十九日午後十一時頃リヤカーにコイル（銅線）を滿載してゆく怪しい二人の青年あるを平署員が不審に思ひ本署に連行取調べると石城郡湯本町字吹矢四二宮城縣名取郡館越村字堀内末吉二男運炭夫菊地利雄（一七假名）と同町字三函三十六茨城縣新治郡安食村字樫ケ崎惣太郎長男佐藤正（二〇假名）と稱し同夜同町三函九九鮫岡又男方からリヤカー價格十五圓を窃取しその足で磐城炭礦倉庫内からコイル八十圓分を窃取し處分にゆく途中捕へられたものであるが餘罪多數に上る見込みで取調中

犯人海中に飛込み自殺を企つ
きのふ赤沼海岸で
四倉署の大捕物

新潟縣刈羽郡商柳村字岡田生れ當時住所不定無職前科窃盗一犯自稱柳幸一事牧野三郎（三五）は本月七日東京巣鴨刑務所を出で其の足にて千葉、茨城各地方を荒し二十日午後四時頃本郡草野村の神谷地内に入り込み來し事を四つ倉署の探知する處となり四倉署は直ちに署員の非常召集を行ない搜査の結果犯人は非常線の嚴重なるを知り赤沼海岸に横切りたるも逃げ場を失つた爲め新舞子浦の海中に飛込み自殺を企てたるを草野村駐在根本巡査が飛込み右犯人を逮捕し取調中であるが餘罪多く東京、千葉、茨城各警察署に照介中である

赤井納税表彰　石城郡赤井村には納税組合が十あるが成績が極めて良好なので平税務署では石川署長臨席の上同村小學校に於て十八日午前十時これが表彰式を擧げ表彰した、なほ同税務署では來年度から毎年四月の税務主任會議の際納税成績のよい村及び收入役を表彰すべく準備中

酒代を拂ず暴言を吐く
醉漢一夜檢束

石城郡夏井村大字上大越酒商鈴木武雄（三二）は二十日夜平町南町飲食店一葉屋方に至り酌婦を相手に十三圓餘の飲食をなしたが二圓きり拂はず捨せりふを殘して同家を立去り通行人に喧嘩を吹つかけてゐたのを巡羅中の平署の平署員が逮捕取調べると現金四百五十八圓を所持しおり一夜留置場に檢束され二十一日朝説諭されて引き下つた

白晝強盜の横行
―政府の減俸を難す―

一記者

二十世紀の今日。我が國の政治は逆轉して正に徳川初期の時代に戻つて行く。徳川の老臣、本多佐渡守は「百姓と云ふ者は餘り暮し向きが樂にならぬ樣にといふてひぼしにならぬようよき程に税金を紋りとるべき者也」といつた。今日の民政黨内閣のやり口が其れに彷彿して居る。

先に煙草の値上をして勞働者階級を脅かしたのも彼等であり一躍ビール税を二十五圓とし酒税を四十圓としたのも亦彼等であつた。ブルジョア保護を以て天下に鳴つて居る、井上藏相は一官吏の増俸となつた大正九年の物價を百とすれば本年は六三で正に三割七分の低落となつて居るから一割位の減俸は當然だ」といつてゐる、井上氏のいふ物價指數とは、恐らく日本銀行調査の其れを云ふのであらうが、抑もあの調子が日常生活につきどの位ノ値打ちがあるものか大に疑問だ一例をいふならばあれには家賃が含まれて居ない。

◎

而も、其の家賃はサラリーメンにとつて最も耐へるもので、大概は俸給の二割内外を是れに食ひとられ甚だしきは三割以上を之に費すを餘儀なくされる敢て餘儀なくされるといふ。何故なれば、其れ以下の低廉の家賃はないから。尤も退職の恩給は堂々たる別莊を二つも三つも持つてる井上氏には[illegible]ぬだらうが。

成程官吏は大正九年に七割增俸された。が、當時一般は黄金の浪の中に浮かれて居るのに、獨り、官吏は物價の昂騰に氣息奄々の苦しみを續けた、後やつとの事で增俸にありついたのであつた。七割增俸といへば如何にも聞ゑがよいが雪駄の裏金に迄プラチナを付けたといふベラ俸た當時の財界人に比べたら眞に天下の樂みに後れて一寸ばかり樂んだに過ぎないのだいや是れで辛うじて生活を維持し得る最低限度に達したに過ぎなかつたのだ。苟くも一身を擬して忠誠を誓はせる以上、せめても生活だけは保護するのが當り前ではないか。斯の點に於ては徳川幕府が士を遇するの道は可なり整つて居た。餘程の事がない以上、扶持に離れる心配はなく今日程に長官の一顰一笑に氣をもむ事は寧ろ少かつた。切り捨て御免は今日が一番甚だしい。

夏が來れば、一重を纒ひ冬が來れば綿入を着ける。一重を着けたから夏が來り綿入を纒ふたから、冬が來るのではないんだ。井上藏相が減はうすれば物價が下[illegible]と思ふのは一重さへ着ければ何時でも夏になり、綿入さへ纒ふたら何時でも冬になると思ふのと同じである。或人は政友會にくみするものは山賊だといふた。が井上氏はサラリーメンの皿の中の食物を白晝強奪する盜だ。政友會が山賊也といふ理論は吾人には分らないが、白晝他人の物を强奪する者は晝强盜ではなくてなんであらう。吾人は晝强盜を取締る刑法なきを大に遺憾とする時地下のマルクスは「己れの處方箋には間違はない」と微笑してるかも分らない。

石城に潛入したか破獄犯人
或は大浦の實家に
平、四倉署大活動

福島刑務所を破獄した犯人前科三犯若松喜市は其後嚴重なる警戒線を脱れ行衛を晦まし茨城縣に居る情婦のもとに逃走したのではあるまいかとの噂もあるが、喜市は石城郡大浦村大字孤塚の生れで本年三月中茨城縣方面に於て窃盗を働き平町に來た處を平署の手に逮捕され福島刑務所に收容されたものであり顔を知られてゐる郷里にはよもや立寄る事はあるまいと警察當局で氣をゆるしてゐるものと豫想し大膽に入込んで來るのではないかと同人の裏をかき見事取押へんものと平署を始め四倉署では同人の現れるのを待ちかまへて警戒をなしてゐるが同人は極めて平町地方の地理に精通して居り從來も石城郡と茨城縣を股にかけて荒し廻つてゐたので嚴重なる警戒を續けてゐる

鈴木片濱に大型バス
新シボレー快走

鈴木片濱自動車商會では、今回福島モーター商會より十六人乘り六氣筒シボレー大型乘合自動車を購入し近々中に運轉を開始する事となつたが、昨日關係者試乘をなしたるところ車の構造坐席設計、内外の裝飾等大都市のバスと變りなく片濱街道を快走するのも茲二三日中との事であるからこの方面の乘客もいよ〳〵惠まれることであり、鈴木自動車の新威力である

家を守る爲めに病む青年自殺
兩親を頼むと遺書し
磐崎の死体身元

磐崎村湯長谷地内に去る十七日若い縊死体のあるのを發見平署で檢視したが身元不明の爲め村役場に引渡し假埋葬に附したことは既報したが右は茨城縣西茨城縣北河根村國江の弟赤津幸八（二八）と判明した幸八は農家の[illegible]中昨年徴兵され入營中胸膜炎、疾病除隊され爾來實家で醫師の治療を受けてゐたが仲々快方に向はず生き永らいては却つて家の爲めでないと本月初旬家を出で前記場所で自殺を計つたもので懷中には左の如き遺書があつた

（兄上へ）私は家の安全を計る爲め他郷で此の世を去ります、私の無き後は兩親を大切に面倒見て下さい合掌（幸八より）

平、東京間の直通電話開始
今二十一日から取扱ふ
時間は五分の一

平、東京間の電話は水戸中繼であつた爲め非常に混雜し時によつては五時間乃至十時間位を要し不便甚だしかつたが今二十一日から直通の電話線が開通したので從來要した時間の五分の一位に短縮されることとなり非常な便宜となつた

●●●●●内郷有志へ……内郷有志一同なる投書の方に是非面談したし、御來社下さるか或は住所氏名を御內報下さい（關り）

小學教員
郡下で十九名
百圓以上の

減俸反對の聲に脅れた政府は不面目にも右案を撤回するらしいが本郡下小學校教員中百圓以上の俸給者は左の如し

植田	篠原　保治	一二五
山田	折原鬼太郎	一二〇
勿來	大內　勇	一三〇
川部	伊東　芳松	一〇〇
平町	曾我　直治	一四五
同	佐藤　一	一三五
同	赤津　千里	一〇〇
小名濱	西山直三郎	一三〇
湯本	前川　三省	一三〇
同	岩堀　宅治	一〇五
內郷	渡邊　壽重	一二〇
同	岡田圓治郎	一一五
好間	渡邊　清	一三〇
赤井	鈴木佐四郎	一〇〇
同	石橋　儀作	一二〇
神谷	澤田　一榮	一〇〇
草野	五十嵐新平	一〇〇
大浦	二階堂誠一	一〇〇
四倉	馬場　末松	一三〇

炭礦聯合の陸上競技
本社で優勝旗

石城郡各所炭礦聯合の第二回陸上大競技會は來る二十七日午前八時より平町磐中グランドに於て開催される事となり目下各炭礦代表の競技委員が打合せ準備中で本社では後援の勞をとり優勝旗を調製中のところ出來したので平町三井呉服店のウエンドに陳列しておくこととした

大和田醫院竣工
きのう百餘名を招いて
盛大な披露式

平町南町大和田耳鼻咽喉醫院では事務の隆昌と共に狹隘を感じ昨年六月初旬より廣壯醫院の新築工事中の處全く竣工したので昨二十日親戚、知己、町有志百數十名を招ぎ盛大な落成披露式を行つたが院長大和田郡司氏は本郡夏井村出身の小壯家で專攻する耳鼻咽喉科に特異の技術を有し資性寬容にして患者に接するに懇切丁寧を極め一般の氣受けよく門前常に市なす盛況を呈してゐる、同醫院は內外諸設備の完全と相俟ち大和田氏の恰も神域に入る技倆は正に常磐刀圭界の異彩として將來の發展を囑目されてゐる

旭新管長親任式
來月三日に行ふ

赤井嶽住職大僧正旭純榮氏師は今回智山派の管長選擧に當選したこと既報の如くであるが來る十一月二日出發三日東京芝區愛宕町の宗務院に於て管長就任の親任式を擧げ十日京都の本山に向ふことゝなつた

平一校運動會　平第一小學校に於ては來る二十三日午前八時より同校々庭に於い秋季大運動會を行ふと

好間軌道は運轉休止
今後は自動車

好間軌道株式會社では廿日總會の結果軌道の運轉を休止するの止むなきに至つたが原因と視るべきは便利なる自動車の爲め壓倒される結果で今後同會社並に三井自動車部により十分間毎に自動車を運轉旅客に便宜を計ると

途中通信

六時間餘の汽車の旅當地に參り申し候途中、紅葉川前は三分猪苗代の附近は正に見頃、秋晴れにクツキリと浮び磐梯山は全山紅葉の錦に包まれ美觀そのものに候

湯の川のせゝらぎを聞きつゝ

會津東山にて

山田生

磐城新聞社御中

平二校運動會　平第二小學校では來る十月二十七日同校校庭に於て秋季大運動會を行ふと

シボレーの進出
素破らしい
既に四万臺

世界自動車界の一大驚異として多大の好評を博したる六氣筒シボレー號は我國に於ても漸次賣行きを增加し既に三萬五千臺を突破し益々增加の勢に在り、當地に於ても賣行き良好にて、逐日增加の氣運に達し今回行はれたる定期車体檢查に不合格となれる丁型フォードに代り本年中に多數の販賣契約を見る模樣にて當地販賣店に於ても兩三日來異常の緊張を示してゐる

紅燈街

新田町「たちばなからお披露目する新妓は千代壽と申し二十三才の年增ざかり、出場は沼津で藝もほどは保證出來ぬが女振りは正に新田町の一粒もの何うぞよろしく」ですと

移轉披露

毎度御引立に預り誠に有難ふ存じます。今回業務擴張の爲左記の所へ移轉致し一層の勤勵を致して居ります。何卒倍舊の御引立御願ひ申し上げます

平町新道通新藤屋前

高島屋洋服店

電話八〇七番

內臟外科
外科一般
花柳病科

入院隨意　自炊の便アリ

四ツ倉町字本町

門馬醫院

電話四三番地

賣地
商店向宅地

好間村大字上好間字忽滑六十一ノ一（好間郵便局隣）

間口十一間半奥行八間

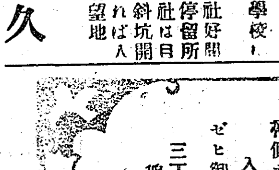
九十二坪

一、縣道に沿ひ好間郵便局西隣

一、好間尋常高等小學校に近く

一、古河鑛業株式會社好間竪坑卸ノ好間軌道停留所隣に位し、古河會社は目下數萬圓を投じ新斜坑開鑿中、近く着炭すれば入夫入込多く大々有望地

地主　平紺屋町　牛久



心地良キ秋ガ訪レマシタ

秋向着尺

モスリント

帶側ガ澤山入リマシタ

ゼヒ御用命ヲ

三丁目

鎌田屋

電[illegible]

一圓十錢のフランス

マルソー會社元詰

生葡萄酒

マルソー、ブランク

マルソー、ルージ

優良にして安價賣行き飛ぶが如し

平二　西村屋藥舗

たはなし　三番

內臟外科

骨關節外科　專門　藤本　順

整形外科

產科

婦人科　院長　木村寅次郎

外科
婦人科

平町新川町

木村病院

電話一六四番